

キク科 ヤブタバコ属

ヤブタバコ (藪煙草)

Carpesium abrotanoides L.

自生環境

山林

原産地

日本在来

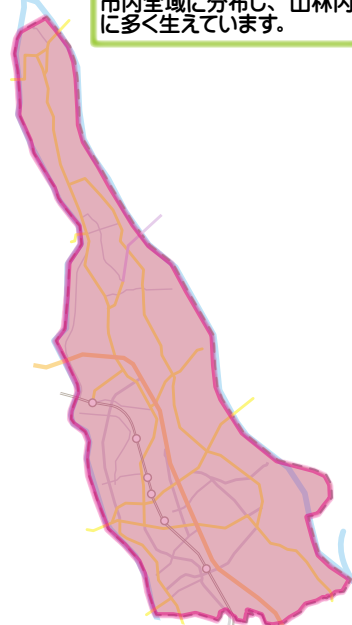
生育を脅かす要因



とても丈夫な草で、今のところは普通種です。しかし林は、ササ類の繁茂や不法投棄などで荒れてしまっている場所が多く、取り巻く環境はあまり良好とは言えません。

市内の分布状況

市内全域に分布し、山林内に多く生えています。



特徴

- ☆ 林の中や公園の木陰など、やや薄暗い場所にたくさん生える越年草です。茎ののびかたが独特で、初めのうちはまっすぐ上へと伸びていきますが、1m くらいの高さになるとそこで頭打ちとなり、そこから横に向かって枝をどんどん広げていきます。
- ☆ 夏から秋にかけて、葉のわきに直径1cm ほどの黄色い花を咲かせます。花は葉に隠れるようにして下向きにつくため、観察するには見上げるか、枝を軽く裏返してみる必要があります。その後できるタネは細長いかたちで、表面はべたべたした粘液に覆われ、独特の匂いがします。
- ☆ 名前の由来は、株もとの葉の雰囲気、まるでタバコの葉のように見えることから来ています。タバコはナス科の植物ですが、ヤブタバコはキク科とまったく別の種類です。もちろんタバコの原料にはなりません。

べたべたでくっつく

動物の体や洋服などにくっついて、タネを遠くまで運んでもらう作戦を、「付着散布」と言います。そして付着散布には、いくつかの方法があります。ヤブタバコはタネがべたべたの粘液で覆われ、これで直接くっつきます。同じようにべたべたでくっつくものにメナモミやケチヂミザサなどがあります。ただ、このべたべたはシミの原因になるので、大切な洋服にはつけないようにしましょう。



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

